

令和7年度第2回大府市ひきこもり支援地域協議会 要点記録

日時	令和7年10月17日（金） 午後3時30分～4時50分
場所	大府市役所5階全員協議会室
出席者	【委員】山田武司、來多泰明、外波祐二、上田美樹子、大久保みどり、社本このみ、杉原直樹、鶴飼数正、大橋房代、中川寛子 【事務局】福祉部長 猪飼健祐、福祉まると相談室長 中本真、福祉まると相談室主査 山下智子、地域福祉課長 山本真嗣、健康未来政策課長 齋藤裕士、健康増進課長 島田真希、学校教育課スクールソーシャルワーカー 山田誠、同 佐藤喜美子、同 清水莉奈、教育支援センター 蟹江修
欠席者	【委員】竹内美喜、山下麻衣 【事務局】こども若者支援課長 久野倫太郎、学校教育課指導主事 武田佳大
傍聴者	2名

敬称略

1 あいさつ（会長）

前回の協議会以降、参加支援事業のアイデアを出してくださりありがとうございます。このアイデアを活用し、一歩外に出ようとしている方にとって、より使いやすいものになるよう協議したい。

2 議題（会長が議長として進行）

（1）参加支援事業の実践例について

（2）参加支援事業アイデアの課題解決について

—（1）（2）を資料に基づき事務局から説明—

—補足説明・質疑応答—

【委員】（アイデア案Aについて補足説明）

当事者がスタッフの仲間に入り、同じ当事者のサポートを行うようにしている。

・費用課題について

事業所で行う今月末のハロウィンイベントで、経費として5,000円渡した。お化け屋敷製作等に必要な買い出しや会計等の係を行っている。

当事者がスタッフとして参加する際には、イベント1回当日の日当は500円だが、原資がない状況。原資捻出のため、福祉施設で作った作品を販売するなどの工夫も必要。魅力ある商品を作るためノウハウを持った企業とつながることも大事だが、限界も感じる。

日当500円は参加者共通だが、利用者のレベルによって、できることに差がある。参加支援事業に参加する人について情報共有し、その当事者のレベルに合わせた参加支援事業を提供する必要があると感じる。

パラアートのような対価を伴うイベントに応募した時には、主催する実施団体からの協賛金をアートの作成者二人に等分して渡した。とても喜んでしたが、対価の原

資は大きな課題である。障がい者アートの場合は、企業から評価される機会でもあり、本人も出したいという気持ちがある。一方で、不登校ひきこもりの場合は、同様のイベントはなく、また、本人たちも応募したい気持ち、評価されたいという気持ちもない場合も多い。

- ・ 人的課題について

参加支援のイベントを企画する際には、支援するスタッフ側にも対応の労力がかかるという現実的課題も生じている。

- ・ その他

会報や法人誌、施設内のイベントの飾り等に本人の描いたイラスト等を使う工夫をすることで、世の中に出させてもらうよう工夫し、努力している。実施団体からの対価があるものばかりではないため、対価の原資は見逃せない課題。

【会長】課題解決に向けてどのような取り組みがあるか、課題解決への足掛かり等、良いアイデアはないか協議したい。

【副会長】質問。B型事業所が行うものとは別のイベントか。

【委員】B型事業所の利用者や、若者の利用者也登録できるようにしている。障害福祉サービスには原資があるが、若者活動には原資がない状態。その中で、同等のサービスを提供しようとするには戸惑いもある。

【事務局】原資については、余暇にフジバカマの香り袋等を本人に作成してもらい商品価値を高めて市役所等で行うイベントで売り、その売り上げを原資として利用してみてはどうか。また、パラアート名刺やギャラリーパラアートに応募して謝礼を得る等、様々な活用方法を考えていけると良い。

【会長】質問。日当500円の金額設定についてどのように考えているのか。

【委員】対価の金額について、キリのいい水準で、1,000円か500円かと検討し500円と決定した。不登校やひきこもりのアートの場合には、本人たちがどのくらい世に出したいと思っているかも大事。

【会長】香り袋等、市とタイアップして進めると良いかと思う。

【委員】スタッフ側にも苦労がある。関係者にも共感していただけると思う。

【委員】（アイデア案イについて補足説明）

長くひきこもっていた人や躰き経験がある人が社会に入っていくためには準備が必要。今回のアイデアは過去に経験のあるもの。ただカメラのシャッターを押すだけでなく、被写体の服装を直したり、来客に声掛けをしたりする業務もある。岐阜のサポステでは、別の撮影で100～150枚撮影し、1週間後にデータを渡す作業をしていた。月1回だが、時給が発生するアルバイト経験として履歴書に記載できるように繋げた。これがきっかけで、「就職活動に進んでみようか」と思えるようになった例もある。原資となる時給1,200円は、岐阜県（商工労政）の予算で対応していた。

参加支援事業としては時間がかかることだが、実施してみて本人に自信をもってもらうことができたので意味はあったと思う。

通常の支援では本人に言わないような「ダメ出し」も、仕事となると言わなければいけない場合もある。言われてしょんぼりとする人もいるが、社会に出るための練習となる。

原資がないことや、単発で終わらせないように次の利用者の刺激になることが課題だと感じている。

【会長】質問。サポステの正式な利用者と別枠か。就労を目指していなくても大丈夫か。

【委員】同じ枠である。基本的には就労を目指してもらう。

【会長】例えば、撮影活動を（記念写真など）ちたサポ利用者の履歴書証明写真以外に展開することはどうか。

【委員】その場合、クオリティの問題がある。原資の問題もある。

【会長】ハローワークと提携するのはどうか。

【委員】ハローワークでは、イベントはあっても対価を賃金としてお支払することはないので解決策は思いつかない。イベントのデザインを当事者に依頼することは可能。ただし、機会は提供できるが対価を支払うことはできない。

【委員】質問。撮影に参加した本人の反応はどうか。

【委員】手ごたえを感じ、自信になる様子。

【事務局】参加支援の1つとして、例えば9月に開催する福祉・健康フェアの場を活用し、着ぐるみと共に写真を撮影しパウチしたものを来場記念として100円程度で売ることも一案。売上を対価にすることも考えられる。

【委員】質問。撮影には高度なスキルも求められると思うが、事前の研修等のサポートはあるか。

【委員】もともと対人面での課題がある人であることが多いので、段階的に取り組めるよう配慮している。まずは、スタッフが行っていることを見学し、メモを取り、少しずつ実践するようにしている。編集ソフトの利用方法も丁寧にレクチャーしている。

【会長】やりがいを持つようにできると良い。

質問。写真撮影やPC操作等が次のスキルの幅として広がっていくのか。

【委員】スキルといっても、難易度は高くなく、最初は見て学び、その場の雰囲気を感じる程度に留める。まずは、被写体の洋服をハンガーにかけるなど、その人の意欲に合わせた役割にしている。

【会長】財源は課題だが、工夫しながら行えると良い。撮影される側がお金を支払うという考えもある。

【副会長】病院の中で患者に社会経験を体験していただくこともあるが、多重関係（支援の関係と雇用の関係）になってしまい、不満等自分の思いを言えないことがある。病院が患者を都合よく使っているように思われることも考えられる。

【会長】事業所で実施する場合は、雇用関係もあるため、慎重になるべき面もある。

【委員】（アイデア案ウについて補足説明）

資料を参考にJobtagの説明。個人、事業所、支援者にも使えるものである。

このシステムは、仕事等をやりたいかどうかを選択し入力回答することで「興味に関する診断テスト」から提案等を得られる。このシステムを利用するだけでなく、模擬相談等にも発展できるかと思い、今回の参加支援アイデアに提案した。何か連携できることがあれば良いと思っている。

【会長】ハローワークと連携してみるのも良い。参加時のケガ等について、補償を考えるのも大事。市役所で検討してほしい。

【事務局】活動中の事故に対応できるようボランティア保険やふれあい保険について検討する。なお、アイデア案オについては、すぐに取り組めることであるため、すでに実践を開始した。

3 情報交換

【委員】子育て中の生活困窮家庭への支援も行っている。中学生のブレザー制服の古着をもらいたいという家庭があるので、不要で譲渡可能な人と個別に連絡を取り、団体が安価で買い取った後、必要とする人に渡したい。

【事務局】市役所の中でも、広く情報共有する。

4 その他

【事務局】第2回の協議会議題と予定していた「義務教育終了からの引継ぎにおける中間報告」は、第3回で協議する。次回会議は令和8年2月頃を予定している。

5 閉会挨拶（福祉部長）

今回の会議では「参加支援」がキーワードであったと思う。参加支援としてつなぐべき地域というのは、いわゆる建物だけでなく、参加できる機会もつなぐべき地域になると思う。そのためには情報の提供も大切である。また、不登校やひきこもりの当事者が参加し自己有用感を感じることも大事であると思う。

今回の協議を通して、自己有用感を抱くために対価があることも必要になると気付くことができた。今回の協議では全ての参加支援に関する課題の解決に至らなかったが、今後も協議会を通して参加支援につながるよう協議していきたいので、今後ともよろしくお願いしたい。